

今回の事業を通して、改めて文化の違いを学ぶ楽しさに触れることができたとともに、視野も広めることができた。中国へ足を運ぶのは今回が初めてだったが、想像していたよりもずっと素晴らしいところで、現地の方々のやさしさにも触れることができた。また、以前から交流のあった中国の友達からも中国の文化や、料理、街並みなどあらかじめ聞いていたので、事前研修会も含めてあらゆる角度から準備して臨めた研修となった。

まずはスポーツ交流から始まった、現地の学生との交流では、アイスブレイキングとしては大成功だったように思える。ここでお互いの名前や簡単な自己紹介もできた。初対面であり、また文化の違う人と初めてかかわる際にどういったアプローチから入るのかについては、あらゆる場面で大きな課題の一つではあるが、やはりスポーツを介して親睦を深めるのが最も距離を縮めることのできる効果的な方法だと感じた。

そして今回の事業のメインポイントの一つでもあるグループディスカッションでは、二つのグループに分かれてそれぞれが積極的に意見を出し合うことができた。ここでも、アイスブレイキングのおかげでそれぞれがあまり緊張することなく、話し合うことができた。自分自身、やはり母国語ではない言語で話すとなると緊張してしまいうまく言葉が出なくなることが多くあるのだが、今回の交流事業では三日間とも普段通りの自分で、リラックスして英語を話せたので現地の学生たちのおかげであると実感することができた。

そして文化紹介、お互いのプレゼンテーションに関しては結論から言えばよくできたほうではあると個人的に思う。当日のお互いの発表は勿論のこと、その準備段階においても日本の学生と団結して進めることができたからである。やはり、佐世保市を代表して同じ集団として事業に参加するうえで大切な、団結力や協調性も培うことができたので、今回グループをまとめる役として参加した自分にとっても、とてもいい経験になった。

また、瀋陽故宮の視察や、瀋陽野生動物園の訪問に関しても、現地の学生が英語を使って日本の学生のためにガイドしてくれたり、たくさん写真を撮ってくれたりして親睦を深めることができた。特に動物園の視察においては、前日のグループディスカッションでは違うグループだった学生と班を組むことで、より多くの学生とかわる機会も得ることができた。日本の学生に比べて、瀋陽の学生はみんな積極

的で、その後のショッピングや食事の場面においても常に私たちをリードしてくれていたのが強く印象に残っている。

最後に、今回の事業は、これからの自分の学生生活、そしてその先の社会人としての心構えに十分にためになる経験を与えてくれた。あらゆる場面において、常に日本の学生をリードしてくれる瀋陽の学生をみて、逆の立場だったら自分は果たして同じようにできるのだろうかと考えた。おそらく、ところどころで失敗したり、うまくいかなかったりしてしまうだろう。しかし今回の事業を通して、前向きに、純粋に自分の土地を楽しんでもらおう、精いっぱいもてなそうという、瀋陽の方々の想いを何度も感じ取ることができたので、そういった姿勢を見習って、次は私たちが、様々な文化を持った人に胸を張って自分の文化、ふるさとを紹介していこうと思った。

わたしは今回初めて中国に行かせていただきました。参加しようと思ったきっかけは、純粋に中国の学生と交流したいという思いと、中国を自分の目でしっかりみてみたいと思ったのがきっかけです。

実際に中国の学生と交流を通して、「中国って全然悪い場所じゃないじゃん」というのが私の素直な感想でした。日本のニュースやバラエティでは中国があまりいいように報道されないため、私も中国は怖い場所というイメージがありました。しかし、実際に行ってみると中国の方は私たちを温かく迎え入れてくれ、歓迎してくれ、家族のような関係だとおっしゃってくれました。中国の学生は故宮に行った際、自分も訪れたことがなく、初めての場所なのに、私たちのために中国語の説明を読み、私たちがわかるように英語で教えてくれました。また、食事の際には隣の人のお皿にも料理を取ってくれたり、飲み物を注いでくれたりと手厚くおもてなしをしてくれました。私は気を使ってくれているのかと思って、「大丈夫だよ自分で取れるよ」と言ったら隣の人のお皿にも料理を取ってあげるのが中国の文化と言っていました。私たちのおもてなしの表し方とは違う方法でしたが、おもてなしをしてもらっているんだととっても嬉しい気持ちになりました。

初日、私が緊張している時たくさん話しかけてくれたり、動物園でパンダ園まで遠くまで歩くのがしんどくなっていた時は中国の学生と2人で遠すぎ〜と愚痴を言いながら楽しく動物園を回ることができたりと、中国を満喫することができました。もちろん、お互い英語のネイティブではないので言葉が通じないことも多く、スムーズにコミュニケーションを取ることができず、苦勞する時もありました。しか

し、お互いがわかるように歩み寄れば何を言いたいのか理解することができたとし、会話をするのに支障はありませんでした。

今回の事業を通して、私は友達を作ることもできたとし、なによりもとてもいい思い出を作ることができました。私は中国に行き、現地の人に触れ、中国を自分の目で見てきたので、中国と仲が悪いままではもったいない、と感じました。私はこれからの日中関係をよりよくして行くことに直接関係するということにはできないかもしれませんが、私たちが中国の学生と仲良くなり、連絡を取り合う、そのことを周りに話してみる、というふうに私たちが両国間の関係性よりよくする足がかりになれるのかなというふうに感じました。このような素晴らしい機会をくださり、引率していただき、本当にありがとうございました。

今回、佐世保市と瀋陽市の学生交流事業に参加して、様々なことに気づき、学ぶことができた。私の中国に対するイメージには、PM2.5や治安があまり良くないなどマイナスなことが多かった。けど、実際に中国に行ってみて、思っていたほどマイナスな部分はなく、むしろ良いところに気づくことができたのかなと思う。

初日には、まず日本国総領事館を表敬訪問し、総領事や首席領事などの方々と意見交換をした。瀋陽市がどのような都市なのかお話を伺ったり、中国で働いてどのように考えているのかを伺ったりした。私は、将来海外で働いてみたいと思っているので、実際に佐世保市と瀋陽市の交流の為に働いている方々の意見は参考になった。また、瀋陽市の学生と交流する前に、瀋陽市について知る良い機会になったと思った。その日の夜は、瀋陽市人民対外友好協会の方々と食事をした。私たちのことをとても歓迎していて、佐世保市との交流についても話してくださり、とても良い機会になった。本場の中華料理もおいしく、楽しめた。

二日目は、瀋陽医学院の学生との交流だった。まず、アイスブレイクとしてバドミントンをして交流した。スポーツを通して、楽しみながら瀋陽市の学生とすぐに打ち解けることができた。その後、場所を移動し、佐世保市の紹介や瀋陽市の紹介をそれぞれ英語で行った。英語での紹介で少し緊張していたが、学生たちが興味を持ってくれたので良かったと思う。瀋陽市の学生たちも観光地や有名な食べ物などを紹介してくれ、中国についてたくさん知ることができた。また、市の紹介の後には二つのグループに分かれ、グループディスカッションを行った。日中の若者が今後協力できることというトピックだったが、初めはあまり会話がななくうまくわからなかったが、瀋陽市の学生からいろいろと話を振ってくれて、楽しくディスカッションできたと思う。日本の歌が中国でも聴かれていて、それを学生たちが歌

ってくれた時はとても驚きました。他にも洋楽や食べ物、休日、学校生活などの話題で盛り上がったので楽しかった。二日目の午後には、医学院の院長を訪問し、茶道のお点前を目の前で行った。茶道の紹介に学生たちも動画や写真を撮っていて、興味を持ってきているようだった。また、和菓子を配ったら、とても喜んでくれていたので私も嬉しくなった。次に、世界文化遺産である瀋陽故宮を訪れた。瀋陽の学生が、携帯の翻訳機能を使い、歴史などを解説してくれて楽しく、故宮を回ることができた。

三日目は、瀋陽野生動物園に行った。グループで分かれ、園内を見学した。中国語で書かれている動物の名前の発音を教えてもらったり、日本語の言い方を教えたり、会話をしつつ動物を見て楽しむことができた。また、たくさん写真を撮ることができたので良い思い出になった。動物園の後には、繁華街でショッピングをした。人が多く、出店のようなものが多く日本との違いを見て、楽しむことができた。一緒のグループの子が臭豆腐を買って、食べてみてと言われたが、食べる勇気はでなかった。この日の夜は、瀋陽市の学生みんなと食事をした。学生とは最後だったので、連絡先を交換したり、プレゼントをもらったり、写真を撮ったり、とても楽しかった。最後に良い思い出ができた。

この交流事業に参加して、中国のイメージも変わり、中国の学生たちが日本に興味を持ってきていると知り、とても嬉しくなった。また、自分も日本について知識不足なところがあると感じたので、日本について改めて学ぶ良いきっかけになったのかなと思う。瀋陽市で交流したことを、もっと他の学生たちに伝えたり、佐世保市にいる中国からの留学生と話したり、これからに生かしていきたいと思う。

私はこれまで二回の留学を経験しました。最初と二回目どちらもアメリカにいきました。アメリカに行ったから、他の国に行っても何も驚かないだろうと思っていました。実際に中国瀋陽に行く前もそう思ってました。ところが、私は中国に行くと驚きばかりでした。自分の考え方の世界の小ささを身を以て実感しました。わたしが最も感銘を受けたのは食事文化です。まず、ターンテーブルと言うのがものすごく新鮮で、個人的に中国に行ったらただ回すのを楽しんでたと思います。これまでの人生の中であんな大きなターンテーブルを見たことがなくて、こんなの回るのだろうかと思ってましたが、しっかりと綺麗に滑らかに回ったのですごいなと思いました。そのほかにも今まで食べたことのないような味の食べ物だったり、本場の餃子などはとても美味しかったです。そして、わたしが最も感銘を受けたのはお客様に対するおもてなしです。日本人の考え方は出されたものは食べるのが礼儀、

当たり前のことだ、という考えが根本的にあると思います。そのために多少の無理してでも食べる人が良く居ます。私もそうでした。ですが、中国のおもてなし的考え方は、お客様が食べれない量出すのが礼儀というものでした。初日、わたしはみんなで協力して食べよう楽しもうと思ってました。ですが、食べても食べても次々くる料理に限界が来て、そして同時に疑問が出てきました。なぜ食べれないとわかってる量を取って持ってきてるのかと。何故だろう、、という気持ちになりました。しかし、背景を知ってから食事をしてみると、嬉しい気持ちになりました。日本との違いがありすぎてものすごく新鮮でした。またいきたいなと心から思いました。

次に、学生の皆さんとの交流で私は瀋陽の学生の皆さんにはとても感謝しています。私の上手で無い英語をしっかりと最後まで聞いてくれたことが本当に嬉しかったです。だから、私も学生さんたちのために何かしたいという気持ちになりました。また、彼らは日本にとっても興味を持ってくれていて、そして佐世保にもいきたいと言ってくれる人も沢山いてくれてとても嬉しかったです。プレゼンやスライドを試行錯誤して作り出して良かったと思いました。自国に興味を持ってくれること、そして私たちの街に行きたい！と言ってくれることがこんなにも嬉しいとは思いませんでした。とにかく、向こうの学生さんは積極的で、いい意味でグイグイ来てくれたから私もすぐ打ち解けることができました。

この中国瀋陽訪問は私に様々なことを教えてくれました。食文化、向こうの世界遺産、学生さんたちの価値観、日本との違い、そしておもてなし。どれも素晴らしかったです。また機会があったら行きたい、そしてお世話になった方に感謝を伝えて恩を返したいと思いました。

9月20日から9月23日まで中国の瀋陽に行きました。私にとって初めての中国でとてもわくわくしていました。中国は日本と密接な関係でよくニュースでも取り上げられています。良いことでも悪いことでも耳にする中国は実際どんな雰囲気なのか知るのにとっても良い機会でした。全体を通して感じたことは、国家問題のようにシリアスになることはなく、瀋陽の学生はとてもフレンドリーで何でも話してくれました。また、観光していて私たちが日本人だと知ると地元の方々は優しく接してくれました。中国料理をこの滞在期間は存分に食べました。どの料理も美味しく食べ過ぎるほどでした。本場の中華料理は日本と全く違う物でした。

私が一番印象に残ったことは短期間でしたが、瀋陽の学生とできる限り多く交流することが出来たことです。二日間という短い期間で全員と十分に話すことは出来

ませんでした。食事会の際に隣になった人と話したり、班行動で一緒になった人と様々な話題で話すことが出来ました。お互いの市紹介のときは緊張をしていますが、次第に打ち解けていきました。とても仲良くなれたのは班で動物園を回ったり、ショッピングをしたときです。少人数で行動して、中国人一人に対して日本人一人のような感じで良い環境でした。そのため、同じ班の人とたくさん会話が出来ました。学生ならではの大学の話や動物の話、お互いの言語を教え合いました。その会話の中で知らないことを知ることが出来ました。年齢が近いこともあり、話しやすくすぐ打ち解けることが出来ました。ショッピングに行った際、休日ということもあり人がどこに行っても多かったです。しかし、その中でパートナーの子たちはおススメのものを教えてくれました。やはり、物よりも食べ物をおすすめすることが多く、中国の食べ物は沢山の魅力があるのだと思いました。瀋陽の学生は隅々までサポートしてくれて困ることがほぼありませんでした。もし、私が逆の立場だったらここまで出来ていたのかなと思います。中国人に英語ですぐにその土地の名産品を英語で教えたり、気遣いが出来るか分かりません。きっと、焦ってしまって充分なおもてなしが出来ないと思います。そう考えると、今回の瀋陽の学生は本当に優しい人ばかりでした。瀋陽の学生と交流できて、また、この事業に参加出来て本当に良かったです。私にとって貴重な良い経験になりました。中国に興味を湧かしたから瀋陽でも他の地域でもまた中国に行きたいと思っています。そして、美味しい物を食べ、観光したいと思っています。

このたびは、ありがとうございました。